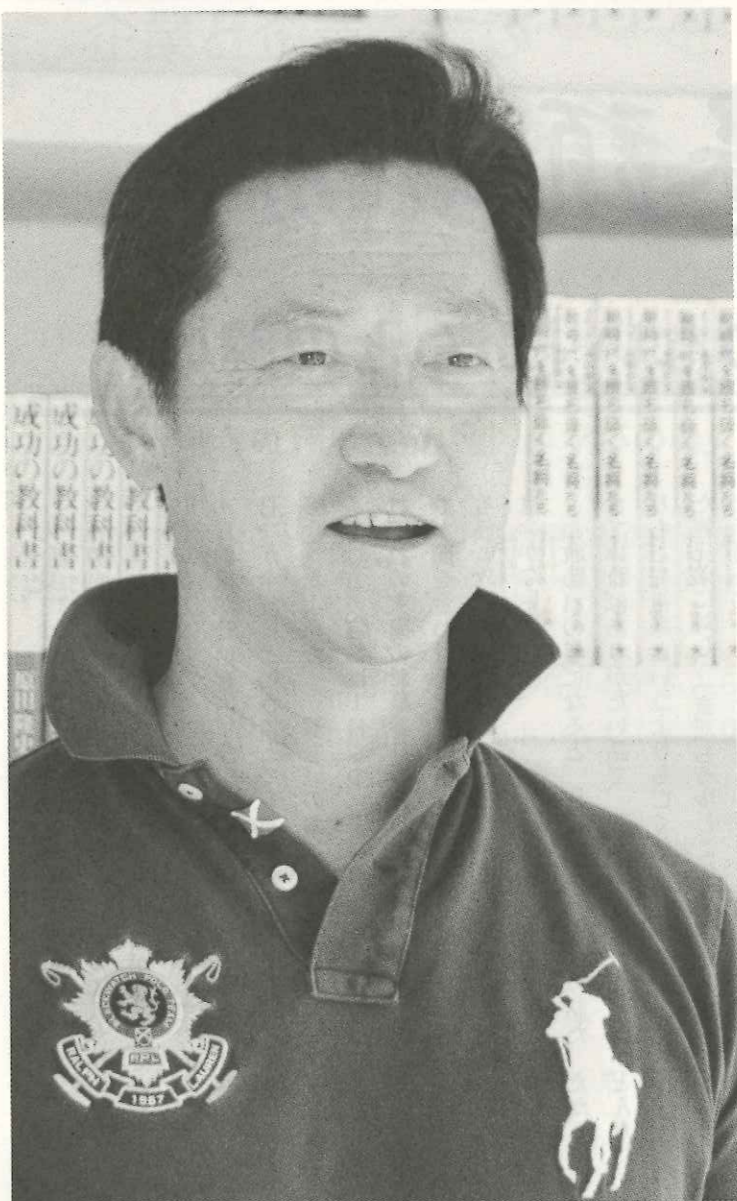


目指すゴールを持った 自立型人間を広く育成

原田教育研究所社長

原田隆史



教師として赴任した荒れた公立中学校を次々立て直し、「生活指導の神様」とも呼ばれた原田隆史氏。指導した陸上部で「普通の子」たちを個人種目日本一13回などに導いた教育法「原田メソッド」で、日本社会の立て直しに挑む。

Profile プロフィール

はらだ・たかし

1960年生まれ。大阪府出身。奈良教育大学卒業後、大阪市内の公立中学校で20年の間、保健体育、生活指導に当たる。独自の指導理論で次々と荒れた中学を立て直し、3校目の大阪市立松虫中学校では、陸上部顧問として7年間で13回「日本一」を輩出した。大阪市教職員を退職後、天理大学人間学部講師を経て原田教育研究所を起業。「原田メソッド」で企業の人材育成を行うほか、教師塾も主宰する。一般社団法人セルフマネジメント協会代表理事、三重県政策アドバイザーなどを務め、主な著書に『カリスマ体育教師の常勝教育』『大人が変わる生活指導』『折れない心を育てる自画自賛力』などがある。

——幅広い分野で人材教育、職場環境づくりなどに携わっておられますが、元々は中学教師をされておられたのですか。

原田 はい、スタートは保健体育の教師です。大阪の公立中学で保健体育科の教師として、また生活指導担当、陸上部の監督として、20年間子供たちの指導に当たりました。

自分自身、陸上競技をやっていたのですが、選手としては大成せず、ならば指導者としてナンバーワンになろうと、奈良教育大学でいろいろな方法論を学びました。当時は教育は方法論だと思っていたからです。そして最新の方法論をしっかり持って教えたら、生徒は喜んでついてくると思っていました。ところがそれは錯覚でした。

自信満々で教壇に立ち、学んだ方法論で現場の子どもたちを教えようとしたんですけど、当時は校内暴力などで学校が荒れていた時期。子どもたちに「先生から学びたい」「教えてほしい」という気持ちがあつて、「心のコップ」が上を向いていてこそ、大学で学んだ方法で注ぐことができるんです。しかし学校の現場は荒れていて、生徒はまず授業を受ける気がない。タバコを吸うわ、校内暴力でしよう？ 方法論よりも、生徒のやる気「先生、勉強します」と心のコップを上に向けて方法がわからないと、注ぐ方法論ばかり知っていてはまったく役に立たないとわかりま

した。そこから、本気とか、真面目とか、プラス思考とか、心のコップを上に向けてのためにほんなことをすればええのかという研究をさせてもらったんです。

——どのような研究を？

原田 柱は3つです。1つは企業のマネジメント。元タナベ経営の優秀なコンサルタントで、関西で多くの経営者を指導されている平岡和矩先生のところへ縁あって行きまして、教員は僕だけでしたが、月1回、企業の社長や人材教育の幹部と一緒に、机上の空論ではない現場のマネジメントをたたき込まれたんです。「ああ、これや」と。学校教育というものの中ではマネジメントは習っていないかつたけれど、「いるなあ」と思いました。

2つ目は座禅をしに禅寺に行ったときに、人の心のコップを上に向けてるためのきつかけをつかんだんです。それは「時を守る」「まじり時間厳守」「場を清める」「清掃、すさみがな」「礼を正す」あいさつ、返事、ありがたう。「原田さん、この3つをやったら、人の心は前向きになって、本気、真面目になるから、がんばりや」と言われたんです。その通りだと思いました。

3つ目はメンタルトレーニングです。日本ではソウルオリンピック前だから有名になって、今ではスポーツの世界で当たり前前に

なっていますね。当時の日本にはその概念すらまだなかったけれど、僕は科学的に心を高める手法として勉強していったんです。

この3つが僕の原点で、いずれも心のスイッチの入れ方なんです。基本的には時を守る「場を清める」「礼を正す」で心のコップを上に向け、マネジメントでメンタルトレーニングを行っていくということです。

本気で目指した日本一

——教師時代の実績で有名なのが大阪市立松虫中学校陸上部ですね。

原田 3校目で、最後の勤務校となった中学校です。人間力と指導力の向上にひたすら励んで13年。荒れた中学を立て直し、大阪では少しは知られた教師として充実した教員生活を送っていたところに、かつての同僚が窮地に立たされているという話が飛び込んできたんです。そこで一大決心をして松虫中学校に着任。多くの問題を抱えた学校でしたが、「前任校以上に立ち直らせ、素晴らしい学校にする」と燃え、教師人生をかけようと取り組みました。

——在任中の7年間で砲丸投げなどで13回の日本一達成など、実に輝かしい記録ですが、突出した選手が在籍を？

原田 いえ、どの子も皆、ごく普通の子ばかりです。ただし、フィールド種目に絞れば



です。22年ほど前のことです。なんで自殺を…と思ったら、職場でのイジメでした。イジメって子どもの世界のことやと思っていたので、優秀な人が集まる立派な会社の中で、大人の人間関係に不都合があつて命を絶つなんて、信じられへんかっただけです。企業の教育ってどうなっているのかなと見に行ったらひどかった。でも、ひどいといつても人の育て方を知らないから起きた「未学習」という問題でした。だから、教えたら変えられるだろうと、そのころから思っていました。

—— 近年、うつ病を発症したり、短い年数で離職する人が増えています。原田さんは何が起きていると。

原田 価値観の不一致です。原田式長期目的・目標設定用紙では「目的・目標」欄に①私・有形②社会や他者・有形③私・無形④社会や他者・無形という4つの観点を設けています。①は例えば1千万円稼ぐとかで、年齢の高い人の多くはこの領域だけに目標をつくってきた。でも今の中堅や若い人は4つの領域全部を夢や目標と思っている。そこが合わないんです。

若者はバーチャルな世界、気持ちを大切にしている世界に生きています。「多くの収入や地位なんていらぬ。社会を明るくしたい」と言う。それを上司が昔ながらの価値観で「自分のことをちゃんと考えなさい」なんて言う。「辞めます」となる。両者からヒアリングすると、若者は「価値観の不一致です」と言い、上司は「今の若い奴は自分のことまでできてへんの、人のことはかり言ひよるねん、原田さん」と言う。

もちろん稼がなかったら生きて行かれへんけど、若者はお金を稼ぐよりも生き生きしたいんです。ワクワクしたいんです。そのワクワクを生み出すために、趣味とか家族、奉仕活動などに大きな価値を置き、そこで自分を高めたいと思っっています。その視点を閉

じさせ、「お前、売り上げ目標を達成していないのに、何が趣味や、奉仕活動や、何考えてんねん」と頭ごなしに叱責すると、辞職するか、心を病んでしまう。横から見たら滑稽なくらい、同じことがずっと起きています。

そうではなく、無形なものへの価値観も認めながら、自分や会社、社会の有形な部分についても考えさせ、4つの観点すべてで未来の目標、ゴールをつくって目指させていくのがいい。自己実現と社会貢献がセットになっているのは今や当たり前のこと。自己実現ができて社会性が備わっている状態が、「生きる力」が高いということです。

ライフワークハーマニーで

—— 趣味の追求ということでは、昨今では本格的な趣味を持つ経営者も少なくなっています。

原田 トライアスロンなども社長さんたちの中で流行っていますね。健康管理のためにやっていると思うでしょう？ 違うんです。トライアスロンというスポーツの中で自分が立てた目標を突破することが、仕事にイコールで生かされるからです。

仕事で頭が煮詰まったら、トライアスロンを頑張る。するとそれが仕事にも返っていく。仕事だけでなく、趣味とか、奉仕活動とかでもしっかり未来を描きながら日々を送る

む差別化戦略をとりました。松虫中学は校庭が狭く、トラック種目は向いていません。また砲丸投げなどのフィールド種目なら、ほとんどの子どもたちは中学校まで経験していないので、運動能力で既に差があったり、環境に恵まれていなくても、全国の中学生と互角に戦えるからです。そして子どもたちの活躍は偶然ではなく、はじめに「日本一になる」と宣言し、その目標に向かって全力で挑戦してきた結果なんです。

—— 日本一とは高い目標ですね。

原田 自分なりに学校を変ええる見通しは持っていました。夢や誇りが欠如していた松虫の子どもたちの心の状態を考えると、高い目標を掲げるしかない。子どもたちの心をつかむにはスタートが肝心で、それには大阪一では弱い。絶対に日本一やと。

この、ゴールをちゃんとつくるということが重要で、自分はどうなりたいか、どこに進んでいきたいか。そういうゴールをつくって、それに向かって進んでいかんとあかんのです。これはスポーツに限ったことではありません。結果を出す人は、未来に向かって鮮明なものを描いている。けれど、そうはいっても、多くの人は何を描いていいかわからない。この「人にゴールを描かせる仕事」がありました。コーチングです。僕は教師やから「教えてなんぼ」だと思っただけで、コーチ

ングのプロに教わりに行ったら、質問をされるんですよ。「まじろっこしいな」と思っただけ、自分で答えると、気持ちがいいんです。ね。そうしてコーチングを取り入れたら、生徒に結果が出たんです。

でも当時は陸上部員だけで80人くらいいて、受け持ちの生徒全員にコーチングできない。「じゃあ、質問して答える代わりに書きか」と一枚の用紙にまとめたんです。長期目的・目標設定用紙です。それによって、それまで4人くらいにしかコーチングできへんかったのが、一気に600人に広げることができた上に、僕のコーチングの精度も上がって日本一を連発。奇跡とかマジックとか言われました。

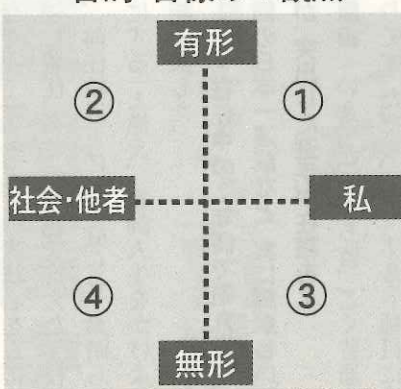
その後も試行錯誤を繰り返して、今では中学生バードジョンに小学生バードジョン、大人バードジョンもあります。またゴールをつくった後もほったらかしにせず、毎日行う具体的な行動を決めたり、1カ月単位の〇×表で習慣化したり、日誌で今日を振り返り、明日の事を考えたりといったツールもできていき、それらを「原田メソッド」と名付けました。

4領域に目標を持つ

—— 対象年齢で使われている言葉や細かさの違いだけで、要素は同じですね。

原田 そう。そして小学生のスイミングス

目的・目標の4観点



4つの観点それぞれに自ら目標をつくり、毎日の取り組みでゴールを目指す

クール合格、大人のお金儲け、中学生の砲丸投げ優勝と、書いている内容はまったく違うように見えて、目標達成のために人間が考えることは同じです。これが目からウロコの大きな発見でした。僕はこれまで22冊の本を出し、24カ国で出版されてもいます。そこまで受け入れられたのは、年齢、性別、国を超えて普遍的なものであり、かつ皆がそれを知らなかったからでしょう。

—— 15年前に教職を辞められたのは。

原田 人は家庭で育ち、学校で学び、社会に出て会社で働き、パートナーを見つけて家庭を作り——と、家庭、学校、会社は円環的につながっています。学校教育だけ頑張ってもだめ。でも、それをコーディネートする人が世の中にいなかった。じゃあ私がやります。まじろっこ、教師を辞めたんです。実は会社に入った教え子が自殺したん

と、仕事も伸びる。仕事で頭打ちになった時は他のことをやるのがいいんです。

——それは逃げではないと。

原田 違います。それを逃げやと考えると、まあ仕事観が、これまで日本の中にあつたから、女性とか若者が「合わない」と辞めたりすることが起きる。確かに僕らの世代は朝から晩まで滅私奉公で働くのが男らしいという価値観やつたけど、今はそれが変わってきている過渡期やと思います。だからこそ、無形なものを目標にする若者に対して有形なものへの目標設定もさせ、「人生を売り豊かに生きなさい」ということをホンマにやっている会社だけがこれからは栄えていく。

仕事も、趣味も、家族のことも、相乗効果で高まっていくんです。それは、「ワークライフバランス」やなしに「ワークライフパーモ二」やと僕は思います。バランスという仕事6なら家庭4と、片方が増えれば、片方が減る感じでしょうか。そうではなく、仕事も100点、家庭も100点、趣味も、社会奉仕活動も100点と、自分のやりたいことの全部で100点を取る。そういう価値観を持っている会社に若者たちは集まっていき、仕事だけという会社は淘汰されていく。それは、良い時代だと僕は思います。

——学校教育の内容も変わってきていますね。

僕の話聞いて「もつと早く聞いておきたかった」と涙を流す人もいます。「全然遅くありません。力を貸してください」と言うてるんです。日本の親父たち、やりますよ。大丈夫です。定年になったら僕らのところから孫世代のところに社会教育をしに行く。シニアで教育軍団を作り、北海道から沖縄まで教育しまくろうかなと思っています。

——社会教育の部分を受け持つと。

原田 そう、生き方の教育をシニア世代が受け持つわけです。人間力の教育は原田メソッドでできるとわかったので、それを実施する。昔の時代は家族も多く、近所の子どもたちとも兄弟のように育ち、自然にいろいろな人とのコミュニケーションの仕方などを体験できる社会でした。それが変わっていったのは時代の流れで、それはもう仕方がない。ならば意図的に人と関わりを持てるよう

原田 インターネットとスマホの登場で暗記型学習は終わりました。今は、知識はインターネットで得られるし、地球の裏側とも簡単に情報交換できる時代です。そんな時代に何が大事かというたら、バランスの取れた人間性、社会性、人間力です。だからこそ4観点をバランスよく広げていくことが大事になる。

それに、今まではモノづくりが中心の社会やつたから、社長が作るモノを決めてくれて、社員はそれに従って製品を真面目に作ってさえたらいらよかつたけど、これからの産業構造で求められていくのは、自分でゴールをつくってそれに向かっていくことのできる自立型人間です。原田メソッドでは、セルフマネジメントでそれができるようにするんです。日本も2020年の大学入試改革でそれに沿う内容になります。22年前から僕がやってきたことに、やつと世間が追いついてきたという感じですよ。

孫世代への教育をする責任

——日本は今、大きな分岐点にきているのですね。

原田 いや、ちょっとヤバイ方に既に転びにしているのが僕らの責任。自分の子どもへの教育はもう手遅れですから、孫世代に生きる力を僕らの手で身につけさせるんです。

——今後の活動は。

原田 教師塾をやっていますし、JAPPA Nセルフマネジメント協会では家庭にいる主婦なども輝けるように取り組んでいます。あとは親子塾ですね。普通の塾はテストの点を上げるためのものですが、そうではなく、人間力を高め、生き方だけを教える塾。これを今年度中にフランチャイズ展開します。

日本は一時期、物質的な方ばかりに行き過ぎて、心とか道徳、社会性を忘れたから、世界に展開する一流企業でも、リーダーの心が育っていない。だから東芝のようなことが起こる。暗記が優秀で、テストで高得点は取ってきたけれど、人間としては優秀ではなかったということでしょう。昔は知識の豊富な人

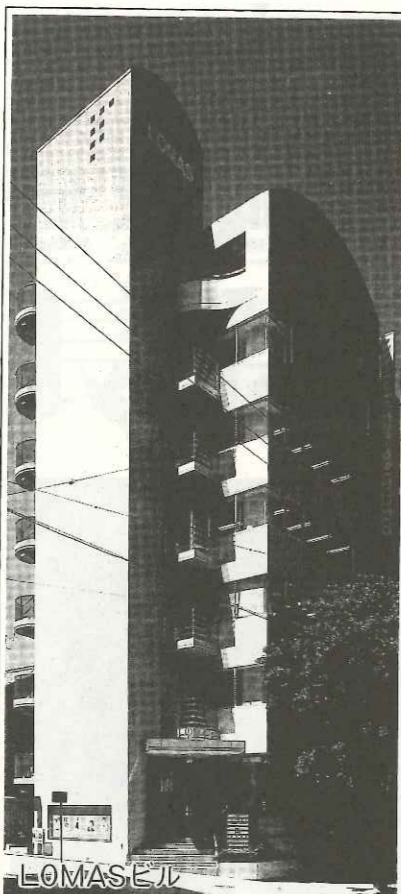


かけていますよ。慌てんといかんでしょう。なんと向きを変え責任があるのが、僕ら50代後半以上の世代。高度経済成長の中で育ち、ジャパンアズナンバーワンで、ええ目を見させてもらった世代ですよ。会社でリーダー的な立場にいる55歳くらいから65歳にかけての人たちは、自分の会社のパフォーマンスを上げることだけでなく、若い世代を育てることに命を懸けないといけない。自分の子どもの教育に失敗したなら、あるいは関わってこなかったなら、孫世代の教育をせえやということですよ。僕らには社会教育の部分で次の世代を育てる責任があります。

が尊敬される土壌があつたから、心も育ちました。けれど今はそうではない。だからウソをつき、社員を疲弊させても平気な組織になつてしまふ。もう一遍、いろいろなことを作り直しせないかん。

一部の人はそうした日本の現状に気付いて海外に逃げているんですが、僕からしたら敵前逃亡です。それはよろしくないなと。企業にしても、日本の企業なら、ちゃんと日本に納税しながら事業が回るようにせないかんでしょう。今、混沌とした時代です。もうちょっと正しい方向にこの社会を導けるように加速度を上げないかん。それが僕らの世代の使命です。人の育成や組織づくりがわからなかつたら、僕らのところにきてくれれば良い。そういう存在を目指しています。

——一層の活躍を期待しています。ありがとうございます。



不動産売買・不動産管理
土地建物のコンサルタント
コンピュータ相談コーナー
地質調査・ボーリング



株式会社
長大商事

〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-2-11

☎ 221-8681(代)